

新庁舎建設検討委員会部会職員ワーキンググループ

第3回 建物構造部会

1. 開催日時 平成30年12月26日(水)午後3時00分から
2. 開催場所 富良野市役所2階 議会説明員控室
3. 出席者 6人(欠席1)
4. 協議内容

本日は、これまでの部会での検討内容のとりまとめを行い、最終報告書の作成に向けたご意見をいただきたい。

■検討事項(1) 防災拠点機能(建物構造)について

(地震対策)

- ・当部会のまとめとしては、災害時の建物本体の安全性確保を目的とする。
- ・建物の耐震安全性の目標は「官庁施設の総合耐震計画基準」の最も安全性の高い目標値と定める。(I類-A類-甲類)
- ・構造形式は、耐震安全性は確保したうえで、庁舎の規模やコストを勘案し「耐震構造」が最適と判断される。
- ・災害時や業務継続に必要となる重要諸室や機器類には、免震床等の耐震対策は必要である。

(洪水対策)

- ・洪水対策としては、1階フロアレベルをハザードマップにおける想定浸水深(約50cm)以上とする。
- ・駐車場については、全体を同様に嵩上げすることがベストであるが、困難である場合は、災害時に現場出動する公用車部分だけでも検討が必要。

(非構造部材)

- ・地震時の崩落防止を考慮した直天井を基本とし、内外装材も軽量でメンテナンス性の高い素材を検討する。
- ・天井部分の配管設備にも配慮が必要。
- ・内装材は道産木材の使用を検討する。

■検討事項(2) バリアフリー・ユニバーサルデザイン機能について

- ・「高齢者、障害者等の移動の円滑化の促進に関する法律」に基づくことは必須となるが、さらに「北海道福祉のまちづくり条例」における整備基準を目標とする。
- ・視覚障害者用誘導ブロックが高齢者にとって支障とならないよう配置を検討する。
- ・必要箇所には、インターホンによる職員呼び出し対応を検討する。
- ・庁舎の主出入口付近に思いやり駐車場を設け、庁舎にアクセスする通路には、雨に濡

れずにアクセス可能な庇等を検討する。

- ・誰もが利用しやすい多目的トイレを各フロアに検討する。
- ・トイレや階段室等の照明は人感センサーによる制御など、高齢者等が迷わずに利用できる設備を検討する。

■検討事項（3）省エネ・省資源機能について

- ・外断熱工法や断熱サッシ、遮熱性や耐久性の高い防水工法の採用により建物の外郭性能を確保し、エネルギー消費量の削減を目指すことを基本とする。
- ・自然採光や自然通風による換気等、自然エネルギーの活用を基本として導入設備等は導入経費やランニングコストを考慮し選定を行う。
- ・照明や空調設備等の自動制御を行うことにより、省エネ効果や効率的な運転制御のため、ビルマネジメントシステム（BEMS）の導入を検討する。
- ・木質バイオマスや RDF ボイラーについては、機械室を2階以上の高層階に設置することを想定すると、機械や燃料庫も大型となること、燃料の運搬や灰処理等の運用コストに課題があることから導入には検討を要する。

■検討事項（4）維持管理機能について

- ・庁舎の長寿命化を想定し、レイアウトの自由度が高く、将来の行政需要に対応できるフレキシビリティの高い構造とする。（オープンフロア、OAフロア、ユニバーサルレイアウト、可動式仕切り壁 等）

■その他（PFI 導入に関する考察）

- ・PFI 方式は、建設時のコストは発生しないが、その分管理や運営費で支払う方式であり、維持管理・運営期間中のコストが大きくなる。
- ・民間が資金調達する場合、自治体が調達する起債より高利となるため、結果的に自治体の負担となる。
- ・建設コストは、一般的に民間施工は自治体施工に比べて 10~20%程度安価に建設可能とされるが、庁舎のように安全性確保の観点から設計の自由度が少ない場合はコストの縮減効果は少ない。
- ・収益施設の併設により、維持管理費の一部を賄えばコスト抑制になるが。
- ・民間事業による提案応募の有無が不透明。
- ・可能性調査や PFI 法に基づく手続きに長期間を要する。

以上、最終報告書をまとめるので、後日確認願いたい。